



NETWORKING NEWS LETTER



CONTENTS

ポランの新たな取り組み【その2】

特集 作り手と流通・販売・生活者の
ネットワーキング 今こそ！

作り手と流通・販売・生活者が
ネットワーキングする生産地訪問

【その1】ハーブズマズ農場&要ファーム・磯山農場
めぞう！地域全体でオーガニックビレッジ

【その2】浜田農園・有機ブルーベリーほ場
心に触れる、有機ブルーベリーの里

7.19ネットワークミーティング
@要ファーム研修室(茨城県)
ポランブランディング

[トピック&ニュース]

原発は、いらない！

8.9 さよなら原発
エネルギーシフトウォーキング(17)
...原発ノー！の声届け

ご協力ありがとうございました！
KidsWeekend@ 青梅 5
報告集配布中！

[INFORMATION]
事務局からのお知らせ

●活動短報

NEW
STAGE
2014 9 月号



特集

ポランの新たな取り組み【その2】

今こそ！

作り手と流通・販売・生活者の ネットワーキング！

7月19日、茨城県行方市の要ファームにて、今年第1回目の「作り手と流通・販売・生活者がネットワーキングする生産地訪問」が開催されました。梅雨明け前の関東地方は天候が不安定。前日も雨降りで開催が心配されましたが、幸いにして当日は集合から解散まで雨も降らず、第1部、第2部を合わせ、作り手・流通・販売・利用者計22名が参加することができました。これから秋のステージ、そしてその先のステージへと、ネットワーキングを進めていく、始まりの場です

これからのオーガニックを共に！

このイベントは2部構成になっています。第1部は、これまでポラン広場東京の「自然学校」として開催してきた、生産地などでの体験交流イベントです。ここではいつもどおりの収穫体験をしていただきました

第2部は「今、そしてこれからのオーガニックを共に」と銘打ったネットワークミーティング。作り手・流通・販売・利用者それぞれの視点から、「環境問題」「オーガニック」「健康」「食」などの共通の視点を繋げ、そこから「これからのオーガニック」にたどり着こう！と考え、企画されました

モノづくりのプロセスを分かち合う

「コンビニオーガニック」とでも呼んでもいいような時代が始まっています。時代は情報・通信のみならず、食の流通のシステムも高度化し、それは「オーガニック」と「コンビニ」という、本質的に相容れない2つの要素を、いともカンタンに合流させました。

しかし、この一見便利な仕組みは、先般の「中国期限切れ鶏肉事件」のような大規模事故を引き起こす危険さも同時に抱えています

岩手の河野和義さんが「取り組みはモノづくりのプロセスを分かち合うこと」と教えてくれました(※)。こんな時代だからこそ、ポランには、「モノづくりのプロセスを分かち合う」場をこれまで通り、提供していく務めがあります。世界最悪の原発事故を経験した私たちは、電気につくられ方に無頓着ではられません。私たちはオーガニックについても同様に、主体的に意識し、選択し、共有する必要があると思うのです

それがこれからの「生産地訪問」であり、これからのネットワーキングのひとつのかたち、といえるでしょう

(※)岩手県陸前高田市の醤油蔵・八木澤商店会長。2014年8月号表紙「取り引き、そして取り組み」参照





【特集】 作り手と流通・販売・生活者が
ネットワークする生産地訪問

【その1】ハーブスマンズ農場&要ファーム・磯山農場

**めざそう！地域全体で
オーガニックビレッジ**

今年第1回目の開催となった「作り手と流通・販売・生活者がネットワークする生産地訪問」は茨城県行方市から。ポランの主力産地である要ファーム、そしてハーブスマンズです。第1部、第2部を合わせ、作り手・流通・販売・利用者計22名が参加し、交流を深めました

■ハーブの香りにほっこり

ハーブスマンズの農場では、様々なハーブや季節の野菜たちが年を通して栽培されています。代表の福山久之さんご夫妻、新たにグループに加わった佐藤剛士（たけし）さん、そして初お見え、福山家の長男・ゆうさんにお迎えいただき、予定通りに全員集合。福山さんから全体のカンタンな説明をしていただいて、さっそく農園散策が始まりました。ハーブ摘みツアーは、「ハーブを摘みながらゆったりと畑ウォーキング」がハーブスマンズの流儀。道々、福山さんのお話を聞きながら…

「この地域は耕作放棄の畑が増えています。そういう畑をお借りしてオーガニックで野菜やハーブをつくり、仲間を増やして、地域全体がオーガニックビレッジのようになったらいいなあと思っているんです」「ハウスでつくるときれいだけど、葉っぱの厚みや香りなら露地です」「台風の時、このハウス閉めきったら温度が上がってしまい、植えていたバジルがかれることに。それを切り戻して……」

散策を終えた一行は、用意していたティーカップを手に、摘んだハーブで思い思いのハーブティーをいただいてほっこり。今日出合えたハーブは、パクチー、セージ、ブラックペパーミント、レモンバーム、ローズマリー、フェンネル、バジル、ヤグルマギク、ペニバナ、ラベンダーなど。ハーブのほかに、モロヘイヤ、エンツァイ（空芯菜）赤紫蘇、イタリアンパセリ、トウガラシなども混植されていて、眺めも楽しいひと時を満喫することができました

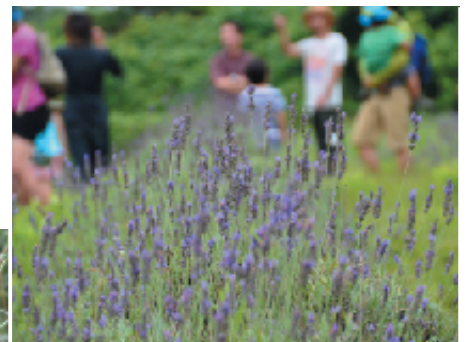
■甘～いトマト、たわわにブルーベリー！

公民館での昼食の後、午後はPOD要ファームへ。代表・磯山茂男さんの案内で、大玉、中玉（ミディ）、そしてミニトマトの収穫体験を楽しみました。苗の植え付けのとき以外は一切水やりをしないという磯山さんのトマト。ハウスの中はそのトマトたちがみっちり。生命力あふれるトマトたちは、脇芽を通路いっぱいには伸ばしてジャングルのような。子どもたちはまるでかくれんぼでもするみたいに大はしゃぎ。ひとつづまんではお口に頬張り、お持ち帰りの分も袋いっぱいには収穫です

というもの。果実の色ムラも少なく、しかも糖度15度はあるかと思えるとびっくりの甘さにみんなびっくりでした

参加者一同ニコニコ満足でトマト収穫を終えて解散後、サプライズが！実は磯山さん、ブルーベリーも栽培しているのですが、摘み頃のこの時期はトマトの収穫におおわらわ、食べごろが鈴なりだから「みんなで摘んで帰って！」というのです。ということでお口いっぱい袋に満タン！たわわに実ったブルーベリー狩りも堪能できて言うことなし！の一日となりました。

この日は別棟で実験中の「隔離ベッド方式」という栽培方法も見学させていただきました。ベッドと呼ばれる長～いプランターに水分を補給するホースが仕込んであって元栓で水分量を調節できる仕掛けです。土には最低限の肥料分で追肥もなし。トマトの水分をギリギリの状態に調節して、高糖度のトマトがつかれる



たくさんの収穫に子どもたちも大満足！

好きなハーブを摘んで、フレッシュハーブティータイム



交流の第一歩は生産現場から。そこには生産者が心をこめてつくった新鮮な野菜やハーブがあり、収穫を体験して、そこから生産者との交流が始まります…。トマト栽培について説明する磯山茂男さん（左）、福山久之さん（中上）、福山ゆうさん（下左）、佐藤剛士さん（下右）



今年から始まった「作り手と流通・販売・生活者がネットワークする生産地訪問」。8月2日、その2回目となる「ブルーベリー摘み体験」が栃木県佐野市にて開催されました。会場は国産有機ブルーベリー栽培の先駆、浜田農園です。日差しの強い朝の農園に生産者、消費者、スタッフ計17名が集まりました



心に触れる、有機ブルーベリーの里

作り手と流通・販売・生活者がネットワークする生産地訪問
【その2】浜田農園・有機ブルーベリー園場



国産有機ブルーベリーの先駆・浜田倍男さん(上左)／品種についてのお話を聞く(上中)／樹高3mの森のようなブルーベリー園(上右)／浜田家お手製のブルーベリードリンクでひと休み(左)



粉に使うニホンミツバチの話などを交え、実を摘みながら、おいしい実の選び方を教えてくれました。大きい粒、小さい粒、どれもおいしい、自分で摘んだブルーベ



リー収穫の喜び。浜田さんご一家と同じ場所で時を共にして、少しだけ、自然と共にある有機農業本来の姿に触れたような気持ちになりました

お昼すぎ、暑かったブルーベリー摘みは無事に終了して、みなさん袋いっぱいの収穫を楽しむことができました。浜田家の有機ブルーベリー園は8月をピークに、秋を迎えていきます

■風にも歴史があるので

この日はなんと、浜田農園からわずか20キロの館林市で38.2度を記録。農園も11時には35度を越えて、うだるような暑さです。そんな中ですから、浜田さんが準備してくださったブルーベリーの冷え冷えウェルカムドリンクには全員大喜び。元気いっぱいになってブルーベリー摘みがスタートしました

実は、浜田農園のブルーベリーの樹高は3m以上もあります。これなら背を屈める必要もなく実を摘みやすいし、適度な木陰もできます。暑い中なので汗もたくさんかきますが、額を拭いて、時おり木陰を通る風に涼を感じながら、収穫が進みます。そんな中での収穫は、甘い、酸っぱい、大きい、小さいを頬張りながら、袋も次第にずっしりと……

園主の浜田倍男(ますお)さんは、かつてネパールやラオスの山村でリンゴを植える活動をしていたそうです。その関係で通っていた果樹試験場でブルーベリーと運命の出会いを果たします。70年代後

半のこと、栽培する人はほとんどなし。ところが倍男さんはこのアメリカ原産の「先住民の恵み」に面白さと深い魅力を感じ、国内での栽培にいち早く着手。以来、野生的な品種から現代的な改良品種まで、試行錯誤を重ねながら木を育て、畑を耕してきました。現在の3mもある、木陰の風が涼しい農園の風景には、木を植える男・浜田倍男さんの35年の歴史が刻まれているのです

■あるがままの有機農業に

「ブルーベリーは時が来ると、ふっとね、おいしくなるんだよ」と語り、摘みごろにはまず最初に鳥たちが食べに来ちゃうんだというお話は倍男さんから。そこに虫やカエル、様々な生きものたちが、あるがままの姿で暮らしています

この日は、大学を出てすぐに就農した三男・迅(しゅん)さんと、今年から就農の次男・朝史(ともふみ)さんの2人も進行のお手伝い。2人は農園を歩きながら、受

今、そしてこれからのオーガニックを共に

ポランプランディング

7.19ネットワークミーティング
@要ファーム研修室(茨城県)

7月19日のツアー第2部です。生産製造者、流通、小売が集まったネットワークミーティングは、「ポランプランディング」というテーマが共有される場となりました

(神足) 1984年にポランが始まり、売るといふより運動として、有機的な野菜やお米をムラからマチに広げようと、ネットワークが始められました。それは時代によくマッチし、広がっていききました

●ポランプランディング

(神足) 今、「ひとつの時代が終わった(※)」。「オーガニック」や「ポラン」を知らない方が多くいる。これから、食べていただく方の目線から、ていねいに「売り方」を再構築していく必要がある。私たちをどう伝えていくかということ。これを「ポランプランディング」と名付け、アプローチしていきたい、と考えています

(岩間) コンビニがどんどん伸び、街の八百屋さんが消えていくという状況。

みんなの知恵を出しあいながら、ほんらいのオーガニックをもっと広げていきたいものです

(森) 最近は雑貨店などが、マクロビオティックも含め、しっかりとしたオーガニックを求めはじめていますね。ヒカリエやハルカスなど、都心の大型商業施設など、特にそういった傾向が感じられます。品揃えより、その店のコンセプトのをいかに表現できるかが求められていると思います

つくる側も様々なテーマを示し、その中からはっきりと打ち出せるテーマを絞り込んで、お店の商品づくりをお手伝いして、お店のブランドで表現するスタイルになってきています。

オーガニック専門のお店ではなくても、スタッフもお客様も、オーガニックやマクロビにモチベーションが高い。そんな時代です。そこに様々なヒントがあると思っています

(福山) ハーブの生産・加工でも似たことを感じます。ハーブがコスメの分野で再認識され始め、そこから関係性が広がっているんです。理解していただくのに時間はかかりますが、オーガニックを何も知らない若者たちは、真剣に話を聞いてくれる。一緒に考え、商品づくりや販売を組み立ていく。そこに新しい活気を感じます



写真上から神足(代表理事)／岩間建亜さん(クレヨンハウス)／森龍三さん、森秀介さん(げんきタウン)／飯塚功さん／中村(POD)／村田(POD)／福山久さん(ハーブズマン's)／磯山茂男さん(要ファーム)／佐藤(事務局長)

●流通は選ばなければ

(神足) 事業体のPODと、NPOポラン広場東京の両輪を「取り組み」として社会に打ち出すこともポランプランディングの目的と言えるでしょう。今夏のギフト商品に、「オーガニックの生産者はスゴイと思うんです」というメッセージを添えて「Art-The Polan」というカードをお付けしたんです。やはりコンビニオーガニックは不安なんでしょう。オーガニックと呼ばれる商品を目にする機会も増えましたが、いまだに環境や食の未来について不安を抱く人はたくさんいます。さらに、オーガニックをまだ何も知らない人だっ

て、まだたくさんいる。期待が高まっていると思います

そんな皆さんに、しっかりとオーガニックが届けよう、様々なアプローチをしていきます。「私たちは東北を忘れない」というメッセージも大切だ。場合によってクラウドファンディングなどの仕組みも活用して、工夫して伝えていきたいですね

…とはいえ、私たち流通は選ばなければ意味がありませんから、ポランに集まる皆さんの声を、これからもどんどん取り入れていきたいのです。ぜひ、広げていきましょう

原発は、いらない！

809さよなら原発 エネルギーシフト
ウォーキング (17)



昨年4月から開始した「毎月11日に近い土曜日のウォーキング」の1回目。今回は8月9日(土)午前10時に福生東町公園(福生市)をスタート。かけ声にぎやかに「川内原発再稼働反対! さよなら原発 エネルギーシフト」、「さよなら普三! 憲法壊すな!」「ガザ大虐殺抗議・子どもを殺すな!」「環境副大臣らによる除染目安引き上げ・被曝強要反対!」の4つの

テーマです。羽村市・神明公園までの約3kmをウォーキングしました。次回18回目の開催は9月13日(土)。お彼岸前ですが秋はすぐそこ。いのちや暮らし、そしてかけがえのない自然を脅かす巨きな力に負けないよう、私たちの思いを伝え、届ける活動は、これからも続きます



原発ノー! の声届け

6月15日に東京青梅市で開催された「カマレポカフェ@青梅」が6月27日付の西多摩新聞に大きく取り上げられました。記事は、『六ヶ所村ラプソディ』『ミツバチの羽音と地球の回転』などを手がけた映像作家・鎌仲ひとみさんのお話に並び、主催したNGO・青梅プンプンの会のこと、そしてポラン広場東京と共に3年間、春夏計5回続けて実施してきた「キッズウィークエンド@青梅」

福島子ども保養ツアー」に大きく紙面を割いていただき、うれしい限り(^^)プンプンの会の代表・星匠さんは「子どもたちと助け合い学び合いながら、今と未来を楽しみたい。常に新たな挑戦をしていく」と決意も新たに。鎌仲監督の『小さき声のカノンー選択する人々』は今秋公開の予定。先月8月22日～24日で6回目となった保養ツアーの様子は、次号でお伝えします



鎌仲監督「次世代まで引き継いでいけるポジティブな運動をしていこう!」と専科者にエール……西多摩新聞、タブロイド版の6段特集記事で取り上げていただきました

ご協力ありがとうございました!

Kids Weekend @青梅5
福島子ども保養ツアー
2014.4.18~20
報告書配布中



4月実施の「キッズウィークエンド@青梅5」の報告書ができました。この取り組みも、多くのボランティア、協賛と寄付により3年5回目。今週、報告書をお届けしています。ぜひご覧ください。今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします



Kids Weekend
@青梅5

2014.4.18~20



事務局からのお知らせ

引き続き、賛助会員の拡大にご協力をお願いします!

●ポラン広場東京は、2011年施行の「新寄付税制」と2012年4月施行の「改正NPO法」に基づき、「認定NPO法人」の取得を目指しています。●認定NPO法人への寄付には、寄付者への所得税・住民税控除、会社等法人への損金算入枠拡大などの税制優遇措置が設けられました。この「新寄付税制」を活用し、補助金助成金と自主事業収入中心の不安定な資金調達から、会費・寄付金収入を主な資金とする法人運営へと発展さ

せる事がねらいです。●認定取得の主な要件は「年平均100名以上の寄付者がいること」です。賛助会員の年会費(5千円)は寄付金とみなされるので、賛助会員100名以上で要件を満たします。●会の運営の健全化、安定化を万全のものとするため、**賛助会員の募集は今後も進めてまいります。**引き続きご家族、お友達などにお声がけいただき、賛助会員の入会拡大にご協力いただきますようお願いいたします!

活動短報

8月

- 2 作り手と流通 販売 生活者がネットワークする生産地訪問 (2) 栃木・浜田農園 有機ブルーベリー摘み
- 9 さよなら原発 エネルギーシフトウォーキング (17) 22~24 キッズウィークエンド@青梅6 ~福島子ども保養ツアー

じむきよく
NOTE



わが家は手づくりが大好きで、いろいろとつくっては楽しんでいます。今年はトマトが豊作なのでしょうが、先日は知り合いの生産者から届き、猫の額の家庭菜園でも豊作、さらにお隣さんからもやってきて、思案の挙句、トマトケチャップをつくることにしました。時間はかかりますが、つくり方はカンタンです。湯むきし

たトマトを香辛料といっしょにぐつぐつ煮詰めてとろみを出し、塩味を整えてできあがり。3分の1ほどになったケチャップは砂糖を入れなくても甘く、濃すぎず、あっさりして、ややピューレに寄った仕上がり。そこがお上品な感じで、おすそ分けもなんと大人気です。めざせわらしべ長者!(竹内)

NPO法人ポラン広場東京
ネットワークングニューズレター

9月号



2014年 9月 1日発行
(毎月 10日発行)

特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052 東京都青梅市長洲4-393-11
TEL: 0428-22-6821 FAX: 0428-25-1880
E-mail: office@polano.org